

市長賞



法吉小学校
5年

タニザト ユウハ
谷里 優羽

(講評)

地球温暖化や豪雨災害がある近年の状況から、今の豊かに水を利用できる環境が、ある日突然に失われるのではないかとふと感じさせられる作品である。昨日までの清流が今日には濁流となってしまうことは他人事でない。重なる両手の中の対称的な水の表現がそう思わせる作品である。

議長賞



雑賀小学校
6年

カトウ リン
加藤 凜

(講評)

子ども達にとって給水車が以前より身近にイメージの中に入ってくる時代なのかと思わせる作品である。水を求めて並んだり、そこに急いだりする人が描かれており、リアリティーがある。日常的ではないからこそ、水は命やくらしを支えるものだと気付かされる作品である。

局長賞



母衣小学校
2年

フジハラ カヤ
藤原 香陽

(講評)

ひまわりに水やりをする少女と、水を得て生き生きと大輪を広げるひまわりが描かれている。猛暑と言われる夏を元気に乗り切るために欠かせない水のありがたさを思わせる作品である。



津田小学校
3年

サトウ シノン
佐藤 心音

(講評)

水源となる河川の環境保全をイメージした作品である。身近な場所でのゴミを拾うことひとつで、守られることがあるという点に気付かされる作品である。

素朴な構図ではあるものの、川の水の流れを描く筆づかいや色の重ね方は丁寧である。



大庭小学校
3年

ミヤコダ ホノカ
都田 穂歌

(講評)

子どもらしいのびのびとした表現が画面いっぱいに力強く描かれた、とても印象の強い作品である。主題もしっかりとしており、水道水でうがいをする女の子の表情や、退治されていくウイルスの様子も明快である。

水道水の広がる先には子どもの目線にある、利水の場面もきちんと描かれている。優れた表現と言える。



法吉小学校
5年

タカイ ミズキ
高井 瑞姫

(講評)

机上のコップ一杯の水が有限で貴重なものと教えてくれているようである。水道から途切れることなく流れ出る水に慣れている私達は、とするとコップ一杯の水の価値を忘れてしまいがちである。